



徴兵制が出来る？ 「経済的」徴兵制がね！

熊本の大地震では、消防等と共に自衛隊も災害救助に活躍。生き甲斐を感じ「憲法九条で外国を攻めることは無い。専守防衛」と多くの自衛官は思っていたらう。

ところが戦争法(安保法)によると「日本と密接な関係のある国」が攻撃された時、集団的自衛権を発動。即ち、日本と「密接な国」A国をB国が攻撃すると、政府は集団的自衛権でB国攻撃を開始する。これは自衛官には晴天の霹靂。

自衛官希望が減る？

「外国を攻めるなんて」と、自衛官になる人がいなくなる。即ち、徴兵制復活???

米国はベトナム戦争後の反戦の高まりで徴兵制を廃止。それでも、イラクやアフガンでの戦争に兵士を欠くことはない。どうしてか？

親の援助無しに大学に進学すると、卒業までに奨学金、生活費で、約八七〇万円の借金となる。ところが、良い就職口が無い。そこに軍のリクルーター「軍に入れば奨学金を肩代わりする。イラクに行くとは限らない」他に返すあても無いと軍に入れば、イラク行き。

日本では・・・

今日、大学で奨学金を借りると平均三百万、大学院迄で最高一千万の借金となる。それを自衛隊に肩代わりして貰い入隊。集団的自衛権発動で海外へと云われても、辞められない。これは経済的徴兵制ではないか？

みなさんはどう思われますか？



枝伐り

横浜市中央区関内

二〇一五年十月

馬車道からJR根岸線のガードをくぐると、高架の脇が緑地になっている。楠などが長い年月のあいだにひよる長く育っている。

あんまりひよるひよる背が高く、枝が茂り過ぎると大風の時など大変なことになる。

これを、空中作業車(伸縮自在の柱の先に人の乗る作業台をつけたもの)で枝伐りしていた。チェーンソーで、次々と枝を伐って行く。伐ると作業台の位置を変え次の枝に挑んでいた。

元プラント建設エンジニアの小生は、今は庭木の剪定で苦勞。脚立を建てては上り、一枝伐っては、脚立を下りて、脚立を移動している。

何とか自在に移動できないかなあ・・・空中作業車はいいなあと思われてしまう。

